

# 「申し出の断り」表現における日本語・タイ語母語話者、 およびタイ人日本語学習者の意味公式使用の相違

成田昌子 成田高宏

## 要 旨

本研究は、日本語・タイ語母語話者、および学習者の「申し出の断り」表現における意味公式使用の違いを分析するものである。日本語母語話者、タイ語母語話者、タイ人日本語学習者を対象に談話完成テストを行い、収集した表現を意味公式に分類し、コレスポネンス分析を用いて分析した結果、日本語とタイ語の意味公式使用に見られる特徴の違いは、間接的表現の使用と発話の複雑さに表れることが見出された。また対人関係に関しては、学習者の目上に対する表現が日本人の目下に対する表現に近く、学習者の親しい人に対する表現が日本人の親しくない人に対する表現に近い、という傾向が見られた。「申し出の断り」の際に相手に対して感じる心理的負担の差異が、表現傾向に影響している可能性を論じるとともに、学習者の日本語に関し、タイ語から日本語への語用論的転移が見られ、また言語形式に関する知識・運用力の不足が示唆されたことを考察、報告する。

キーワード：心理的負担 語用論的転移 DCT 意味公式  
コレスポネンス分析

## 1. はじめに

発話行為「申し出」は、発話者が相手の利益のために負担を提案する働きかけである。たとえば「依頼」に対する断りに関しては、用いられる表現およびその組み合わせが対人関係により異なり、さらにその傾向が言語によって変わることで、学習者の中間言語には母語からの転移が見られることなどが、これまでの研究により明らかにされているが、「申し出」に対する断りを扱ったものは少ない。

学習者の断り表現を取り上げた代表的な研究に Beebe et al. (1990) がある。Beebe らは、英語母語話者と日本人英語学習者および母語を話す学習者が使用する断り表現を「意味公式 (semantic formulas)」に分

類し、日本人英語学習者の語用論的転移について指摘した。また、日本語学習者を対象として分析したものには、英語を母語とする日本語学習者の日本語を対象とした生駒・志村(1993)、志村(1995)をはじめ、インドネシア人学習者については藤森(1995)、マレー人学習者については伊藤(2001、2002)などの研究があり、対象とされた学習者の母語も多岐に渡る。これらの研究から日本語学習者の中間言語には、語用論的転移やアコモデーションが見られることがわかっている<sup>1)</sup>。

またルンティエラ(2004)は、タイ人の「提案」に対する断り表現に関し、発話の内容に着目して「意味公式」の対人関係別使用パターンを分析した結果、パターンの使い分けが日本語とタイ語とでは異なり、学習者が母語に近い使い分けをしていることを報告している<sup>2)</sup>。また「親しさ」と「上下関係」がもたらす断り表現の違いの傾向が日タイ語で異なることから、転移を指摘している。

これら先行研究の結果を踏まえるならば、「申し出の断り」表現においても日本語とタイ語とでは異なる傾向があり、そのため学習者の日本語には母語であるタイ語からの語用論的転移が見られることが推測される。本研究は、日タイ語の傾向に違いが見られるのか、見られるとしたらその違いは何に起因するのかを明らかにするとともに、タイ人日本語学習者の日本語に見られる特徴とその原因を探り、日本語における社会言語能力の向上を支援するための指針を見出すことを課題とする。

## 2. 調査・分析方法

調査の手段としては、場面をコントロールしながら大量のデータを集めるために、産出データを集める方法のうちでも最も強制力のある談話完成テスト(DCT)を使用した。これにより、産出された断り表現そのものを観察し、かつ量的な分析により傾向をつかむことが可能となる。

調査は、日本語母語話者 92 名、タイ語母語話者 83 名、タイ人日本語学習者 84 名、タイ人日本留学経験者 19 名を対象に行った。タイ語母語話者からはタイ語について、それ以外のグループからは日本語についての回答を得た。また、その中から、各 7 名(タイ人日本語学習者は 15 名)にフォローアップインタビューを実施した<sup>3)</sup>。日本人は東京都内の大学生・大学院生で、タイ語母語話者および日本語学習者の調査は、バンコクにある 3 大学で行った。日本語学習者は中級初期レベルの学生で、タイ人日本留学経験者は、11 ヶ月から 4 年半までの日本留学経験があり、彼らのほとんどが日本語能力試験の 1、2 級に合格している。

質問紙には上下・親疎関係を踏まえ、13の「申し出の断り」場面を用意した(表1・資料参照)。場面設定の文章については、タイ語母語話者2名のチェックを受けた上で本調査に使用した。

分類には Beebe et al. (1990) の「意味公式 (semantic formulas)」を利用した。本研究での DCT の結果について「申し出に対する断り」の意味公式を作成し(表2)、収集した断り表現をコード化した。分析には統計的処理を用いた。具体的にはコレスポネンス分析と呼ばれる多変量解析を使った<sup>4)</sup>。これにより、各意味公式の相対的關係を示す点と、日本、タイ、学習者の各グループの相対的關係を示す点とが、図上に重ね合わせて示されることとなる。この散布図を読み取ることで、日本、タイ、学習者の各グループにおける意味公式の出現傾向を視覚的に比較できると同時に、どのような隠れた要素によりその散らばりが決定されているのか、すなわち、どのような要素が日本、タイ、および学習者の表現傾向を左右しているのか、推定することが可能となる。

表 1 場面構成

上下	親疎	「申し出」の内容
目上(先輩)	親	引越しの手伝い
目上(年上)	親	おかずを包む
目上(上司)	疎	病院まで車で送る
目上(先輩)	疎	ついでにコーヒー
同等(友達)	親	荷物を持つ
同等(友達)	親	マンガを貸す
同等(同僚)	疎	書類整理の手伝い
同等(同僚)	疎	食事代を払う
目下(後輩)	親	車の運転を替わる
目下(後輩)	親	ついでにおつかい
目下(年下)	疎	バスで席を譲る
目下(後輩)	疎	ビールを注ぐ
店員	疎	プレゼント用の包装

表 2 「申し出の断り」の意味公式

I. 直接的な断り a. 「いいえ」(例:「いいえ」「うん」「いい」「結構です」「いらない」)
II. 間接的な断り b. 残念な気持ち(例:「すみません」) c. 理由(例:「もう終わりますので…」) d. 代案の提示(例:「一緒に行きましょう」) e. 将来の可能性(例:「次の機会に持って」「今は～」「今日は～」) f. 相手を思い止ませようという試み(相手の肩の荷を下ろす) (例:「大丈夫です」「そんなに気を遣わないで」「mai pen rai」) g. 回避(言語的) 話題の切り替え(例:「資料こんな感じで OK だよ」 「ちょっと(省略)」相手に勧める(例:「〇〇君飲みなよ」「若い人からどうぞ」) h. 意思表示(例:「ここまで来たら最後まで運転させてよ」「自分で払うよ」) i. 相手の負担を考慮した表現(例:「悪いから」「遠慮します」「とんでもないです」)
III. 断りへの付加詞(「申し出」の文脈においてそれだけでは断りとして働かないもの) j. 感謝・喜びを表す(例:「お気遣いありがとうございます」「うれしいんですけど」) k. 共感(例:「おもしろいよね」) l. フィラー(例:「ああ」「うん」「あ」「えっ」) m. 質問(例:「どんな話のマンガなの?」「でもまだ読み終わってないんじゃない?」)

回答例 : あ 大丈夫。 もうすぐ終わるから。 ありがとう。  
 意味公式例 : 1. フィラー f. 肩の荷を下ろす c. 理由 j. 感謝

### 3. 分析

#### 3.1 各意味公式の使用率

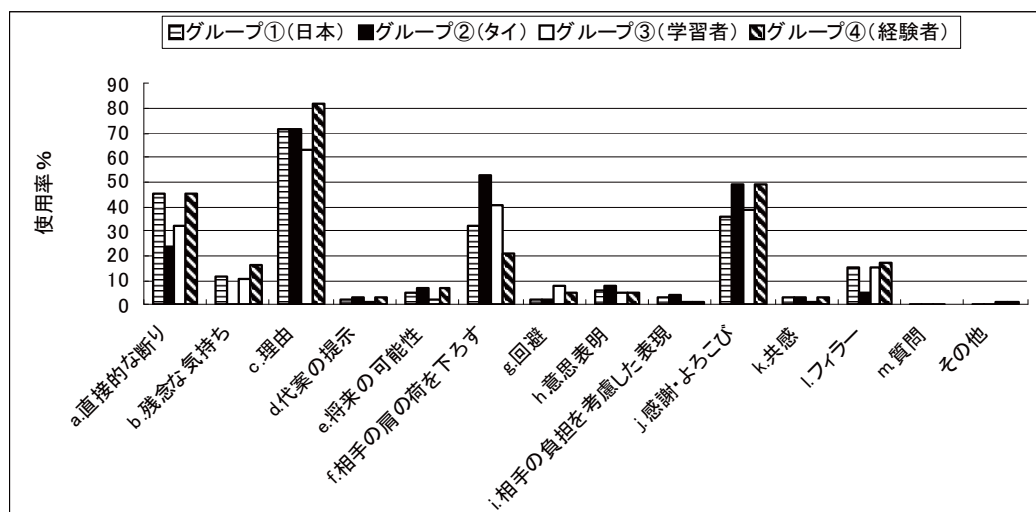


図1 各意味公式の使用率

DCT の回答を意味公式に分類し、各グループの使用率を比較した。13 場面全体で用いられた意味公式の使用率を図1に示す。以下便宜上、「母語話者の日本語」を「日本」、「母語話者のタイ語」を「タイ」、「学習者の日本語」を「学習者」、「経験者の日本語」を「経験者」と表す。

図1から、「日本」「タイ」「学習者」「経験者」に共通して<直接的な断り><理由><相手の肩の荷を下ろす><感謝・よろこび>が多く用いられていることがわかる。各意味公式の使用度数を検討したところ、これら4つの意味公式の使用度数合計は6668で、全意味公式の使用度数8271の80.6%を占めていた。

#### 3.2 意味公式の組み合わせのコレスポネンス分析—全体

意味公式の対人関係別の使い分けをコレスポネンス分析で明らかにすることを試みるため、今回は主要な4つの意味公式<a:直接的な断り><c:理由><f:相手の肩の荷を下ろす><j:感謝・よろこび>の組み合わせに着目し、分析を行った。例えば、「読んだことあるから、いや。ありがとう。それ面白いよね。」と回答した場合、acjという組み合

わせになる（意味公式の出現順序は問わない）。上記4種以外の意味公式も用いている場合には「+」と表記し、4種以外の意味公式を用いていない場合と区別した。この例では「それ面白いよね」<共感>も用いているので「acj+」に分類される。使用したパターンと各グループとの関係を分析したところ、図2のような結果が得られた。

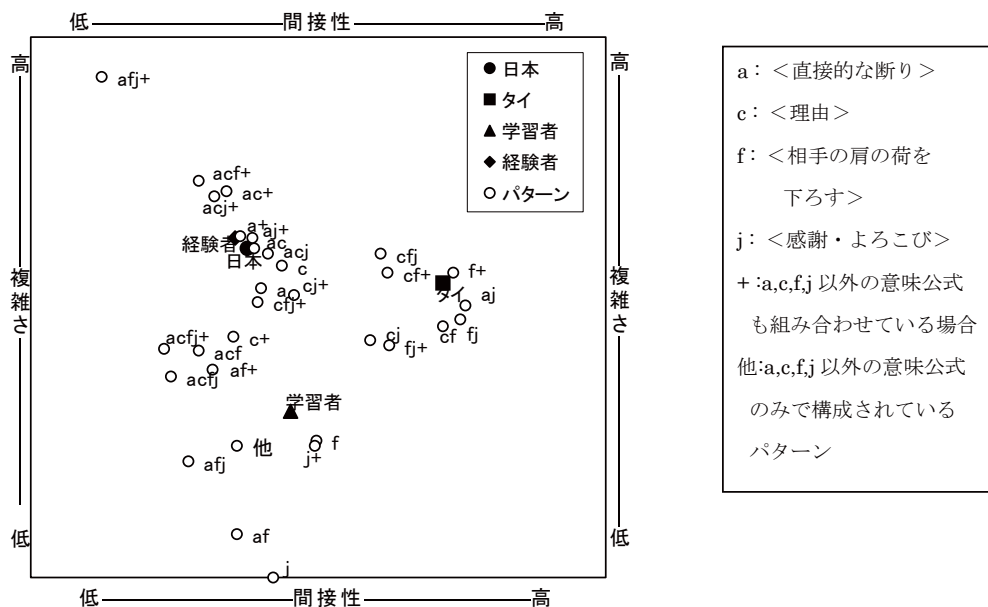


図2 意味公式の組み合わせパターン（全体）

図2の点の散らばりから、(a)を含むものが左方に多く位置していることがわかる。(a)が「直接的な断り」であることから、横軸は右に行くほど間接的な表現を選択する傾向を、すなわち「間接性の高低」を示していると推測できる。

一方(c)あるいは(j)に他の要素を組み合わせたものが比較的上部に集まっている。(c)は<理由>で、(j)は<感謝・よろこび>「断りへの付加詞」(「申し出」の文脈においてそれだけでは断りとして成り立たないもの)に属する意味公式である。下方には(j)だけ、(a)と(f)だけ、(c)がないなどの特徴があり、これらは応答の長さも短く、素っ気なさ、気安さを表すと考えられる。ここから縦軸を「複雑さの高低」を表す軸だと解釈する。

複雑さについて「日本」と「タイ」を比較すると「日本」の方がやや高い。また「学習者」は「タイ」よりも低い。詳しく見ると「学習者」の表現には(f)を単独で用いる、(c)を用いないなど、組み合わせる要

素数が少ない傾向があるといえる。間接性については、「日本」は低く「タイ」は高い。そして「学習者」はその中間となっている。「日本」は直接的な断りである (a) を好み、「タイ」は間接的な断りである (f) を多く使用している。

タイ語にも「mai la (いいえ)」「mai thoong (しなくていい)」など直接的な断り表現があり、「申し出の断り」においても使うことができる。にもかかわらず、間接的な表現が多用されていることがわかる<sup>6)</sup>。

### 3.3 意味公式の組み合わせのコレスポンド分析—上下関係

相手との上下関係と意味公式の組み合わせの関係について検討するため、12 場面 (店員の場面を除く) を「目上」、「同等」、「目下」に分けて各グループの比較を行った。使用率の高かった <直接的な断り> <理由> <相手の肩の荷を下ろす> <感謝・よろこび> の組み合わせ 16 通りのうち、どのパターンを使っているかを集計し、コレスポンド分析を行った<sup>7)</sup>。(図 3)

応答者グループ別に見ると、複雑さ、間接性とも、「タイ」「日本」「学習者」に共通して「目上」「目下」「同等」の順で高い。個別に見ると、「学習者」の「目上」に対する傾向と「日本」の「目下」に対する傾向に近い。学習者が目上の日本人からの「申し出」を断る際、本人は配慮を表しているつもりでも、日本語母語話者の基準では十分ではない可能性がある。一方、「経験者」の場合は「日本」よりも間接的で複雑である。必要以上に複雑な表現は、相手に距離感を感じさせてしまうこともあり得るので、これ

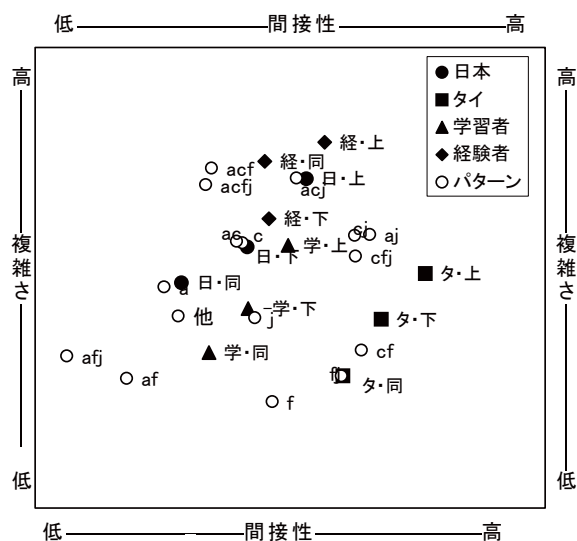


図 3 意味公式の組み合わせパターン (上下関係)

(図 3) 上: 目上 同: 同等 下: 目下  
 (図 4) 親: 親しい相手 疎: 親しくない相手  
 a: <直接的な断り> c: <理由> f: <相手の肩の荷を下ろす> j: <感謝・よろこび>  
 他: a, c, f, j 以外の意味公式のみで構成されているパターン

についても注意が必要である。

### 3.4 意味公式の組み合わせのコレスポネンス分析—親疎関係

上下関係の場合と同様に、相手が親しい場合「親」とあまり親しくない場合「疎」に分けて、コレスポネンス分析を行った。(図4)

各応答者グループ内の差を見ると、複雑さに関し「日本」は親疎による差があり、親しくない相手に対してより複雑さの高い表現を用いるが、タイ語では親疎による使い分けがない。「学習者」は親疎による差が大きい。間接性に関しては、どのグループにおいても親疎による顕著な

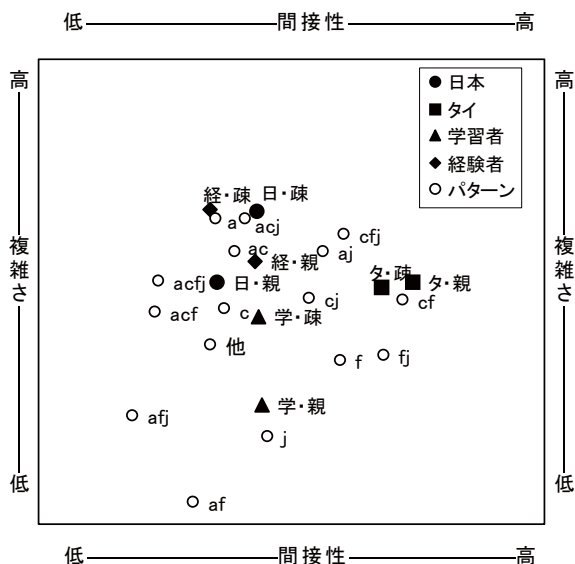


図4 意味公式の組み合わせパターン（親疎関係）

差は見られない。個別に見ると、「学習者」の「疎」が「日本」の「親」とほぼ同傾向であることが特徴的である。「疎」の相手に対し複雑な表現を用いようとしているが、日本人のレベルにまで届いてはいない。ここでは、タイ語からの語用論的転移の可能性は明瞭には見出せず、学習者の言語形式についての知識・運用力の不足が「複雑さ」の低さの主要な原因と解釈するのが妥当と思われる。「経験者」は日本人の傾向と同様である。

### 3.5 インタビューの結果から

#### 3.5.1 日本語とタイ語の違い

「断る理由を述べたのはなぜか」という問いへの回答から、日本人には「申し出」を直接的に断ることの抵抗があまり感じられないのに対し、タイ人には断ることへの恐れからか、より間接的に断ろうとする心理がうかがえた。また日タイに共通して、理由を言って断るべきであるとい



う意見や、相手の理解を得るための応答を行うべきだという意見が見られた。

特にタイ人の場合には、「申し出を受けたくないわけではなく、本当に理由があるのだということを示す」、「理由は手伝ってくれることに対しての思いやりだから言うべき、理由を言わないと思いやりのない人だと思われるのが怖い」というように、やむを得ず断ることを伝えたいという意志が感じられ、相手の親切を断ることに抵抗を感じているのがうかがわれた。

一方、日本人の場合には、「自分でやるという意思を示すため」や「断るきっかけを作るために理由を言う」「理由がないと、一回で断れない気がする、相手にとって何度も繰り返し申し出るのは大変だから正直に理由を言って繰り返しを避ける」というように、断りを達成するための手段として、理由を積極的に用いる傾向が見られ、断りを遂行することに抵抗を感じていないようにも感じられた。

また、日本人へのインタビューでは「断るだけだと冷たいからお礼を言うことでワンクッションおく」「断るだけだと面倒くさいと思っている感じが相手に伝わってしまうと思うから、お礼も言う」「感謝のこトバをたくさん出して感謝しているということを示したい、嫌われていると相手が思わないように」「『今回は～』という言い方をする。本当に帰りたい、でも今回は、ということを表すため」などの意見が得られた。断りをはっきりと表すだけではなく、感謝の言葉や将来の約束を含意する言葉を添えるなどにより、補償の表現を行っていることがわかる。直接的な断りだけでなく他のことも述べることでより丁寧度を高め、断りによる相手へのダメージを軽減していると解釈できる。

その他、「(病院まで送ろうかという申し出に対して)あまり親しくない上司だということ、車を出すのは面倒くさい大変な行為だということ、感謝を表す。車を出してもらおうと後々面倒、その人にも気を使わせるから」という意見から、日本人は、申し出を受けた後の双方の利益や負い目まで考慮すること、そのため気軽に申し出を受けるべきではないと考えていることがうかがえる。タイ人が、申し出を受けることを好み、断ることに抵抗を感じているのと対照的である。

### 3.5.2 「学習者」と「経験者」の特徴

「学習者」へのインタビューでは、「親しかったら申し出を受けて手伝ってもらおう」「親しかったら(食事代を)払ってもらおう」という意見



が見られた。これらの意見には、タイ語母語話者と同じく、申し出は受けたい、特に親しい場合には申し出を受けることで関係を維持したい、という気持ちが表れている。

また「日本的には何と答えるのかわからない」「日本人には最後まで言わなくても断っているとわかる」「会話の授業でビールを勧められた時は『ちょっと』と答えれば飲みたくないとわかると教わった」「日本人と話す時ははっきり言わない方がいい」のように、日本語学習による影響を示唆する回答もあった。「勧誘」に対する断りを過剰に一般化していることや、日本語での配慮の表し方がわからなかったり、回避すればいいと思いつているケースがあることがわかった。

「経験者」に関しては、「タイ語なら mai pen rai (間接的な断り) と理由だけだが日本語では『いえ、結構 (いい) です。(理由)』などと言う」というように、<直接的な断り>も用いるという意見が見られた。「経験者」は、「申し出の断り」場面における「いえ、結構です」などの直接的な表現を習得していると考えられる。

#### 4. まとめと考察

調査、分析の結果、日タイ母語話者の「申し出の断り」が「間接性」と「複雑さ」によって表せる可能性が示唆された。また、日本語が直接的であるのに対しタイ語は間接的であり、日本語は、やや複雑さが高いことがわかった。「学習者」の日本語は、間接性について日タイの中間的位置を示したが、複雑さの低さが顕著であった。間接性に関しては語用論的転移が主要な原因と考えられるが、複雑さの低さは、主に言語形式に関する知識・運用力の不足に起因すると思われる。

「学習者」の日本語が対人関係に関し問題となり得る部分は、「学習者」の目上に対する傾向が日本人の目下に対する傾向と類似し、また「学習者」の親しい人への傾向が日本人の親しくない人への傾向と似ている点である。また「経験者」については、母語話者の日本語に近いものの、母語話者以上に複雑である可能性が示唆された。

伊藤 (2001) は、「勧誘」に対する断り行為と「依頼」に対する断り行為とでは、利益が誰にあるかが違うために、断る側の心理的負担の度合いが異なり、日本人とマレー人とはその負担の捉え方が異なると報告している<sup>8)</sup>。本研究では、同様に「心理的負担」の概念を用い、『申し出の断り』に見られる日タイの傾向の相違は、心理的負担の慣習的差異に起因する」という仮説を提示したい。

まず、日本においてもタイにおいても、「断る」ことは相手の意に反し、面子をつぶす度合いの高い行為であると言えることができる。これは Brown & Levinson (1987)の枠組みを借りれば FTA にあたる。加えてタイ社会においては、「申し出」のように相手から利益がもたらされる場合、受け手だけでなく相手にも利益が生じるという慣習があり、そのため受けることを当然とする傾向がある<sup>9)</sup>。従って明確な理由なく「申し出」を断ることは、社会的規範にそぐわない行為と見なされる危険を含む。反対に日本社会においては、「申し出」に対し断りを示すことは、自分の利益のために相手に迷惑をかけないというわきまえのある行為にあたる。

このような慣習と「申し出の断り」表現の関係について、視覚的に表したものが図5である。

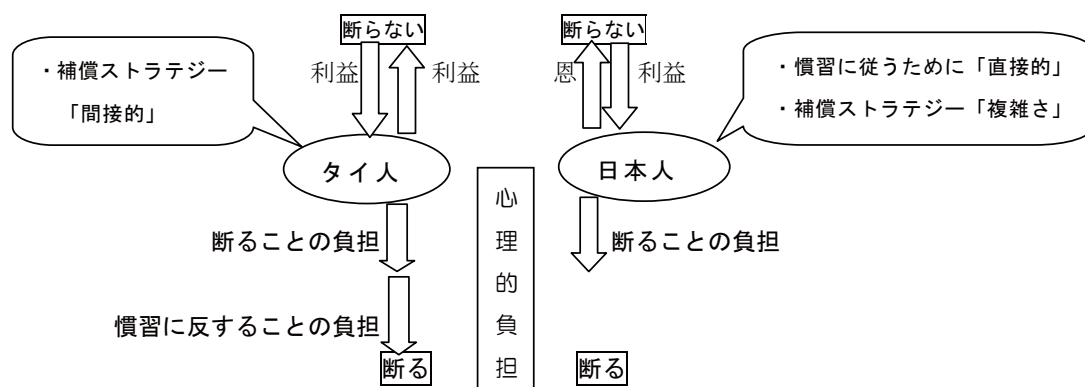


図5 心理的負担に関する日タイ慣習と「申し出の断り」表現との関係

タイ人にとって、「断る」ことそのものが心理的負担を感じる行為であるのに加え、「申し出の断り」は慣習に反する行為である。そのため応答者は「申し出の断り」の際には、強い心理的負担を感じることとなり（黒い矢印は心理的負担の度合いを相対的に示している）、それを補償する方略として曖昧に暈した「間接的」な断りを用いる。逆に言えば、仮に「申し出」を受け入れたとしても、その行為は互いの利益につながると見なされ、日本社会のような「恩」が生じることがない。

一方、日本人の場合は、「申し出」を承諾した場合、相手に迷惑をかけてまで利益を得た「恩」を一種の心理的負担として将来まで引きずることとなるため、「申し出」を気軽に受け入れない傾向がある。従って「申し出の断り」は慣習に沿った行動となり、「直接的」な断りが使用され

る。しかし、「断る」こと自体は、一般的に好ましくない行為であるため、心理的負担が生じる。その補償として、応答を複雑にするストラテジーを用いるのだと推察される。

このように、タイ人日本語学習者が、タイの文化的特徴により断らないことを良しとする意識を持っている場合、日本語で断る場面においても直接的な断りの表現を用いることは容易ではないと思われる。また、目標言語である日本語の形式的知識・運用力の不足から、〈理由〉などの様々な補償表現を用いないため、複雑さに欠けた、日本的な意味での丁寧度の低い表現を使ってしまうのだろう。

さらに、教室で教えられたため、日本人に対する断りには「ちょっと」という回避の表現を用いればいいと思っている学習者もいる。しかし、「申し出の断り」の場合、日本人は断りを表すことを回避するのではなく、むしろ直接的な断りの表現を用い、断りを明言する傾向がある。留学経験者のように学習段階が進むと、日本語母語話者に近い表現を用いて配慮を表すことができるようになるが、逆に日本人以上に複雑な言い方になり、回りくどく聞こえる可能性もある。

## 5. おわりに

今回の調査、分析結果で特に注目したいのは、目標言語形式に関する知識と運用力の向上が、社会言語能力を促進するためにも、大切な課題であることが示唆されたことである。教室においても、まずは複雑な発話を可能とするだけの形式的知識・運用力を身につけることが、日本語での配慮を習得するために必要であろう。

その上で、慣習の違いにも留意し、「日本では利益を受け取ることを良しとしない慣習があり、断りをはっきり述べて構わないが、好意に反してしまうことに対する補償の表現を述べるのが相手への配慮になる」といった語用論的知識の理解を図ることも重要となる。具体的には、同じ断りでも「依頼」、「勧誘」、「申し出」に対する断りでは違いがあることを踏まえて教える必要があるだろう。教室活動においてロールプレイなど対人関係を設定した会話の練習をする際に、教師がその背景となる文化を意識させることで、対人関係に適した表現能力をより向上させ易くなると思われる。ただしその際、過剰なステレオタイプの発想につながることを避ける配慮も必要だろう。

今後は、今回主要な要素として取り上げたもの以外のフィラーなどの要素や、発話順序、断りを遂行するまでのくり返しなどを、他の手法を

用いて調査することで、丁寧さに関わる要因をさらに詳細に分析したい。

## 注

- 1)藤原(2003)では、インドネシア語を母語とする日本語学習者の日本語に、日本人の断り方にスタイルを合わせる「アコモデーション」があると考察している。
- 2)ルンティエラ(2004) p.52-53
- 3)日本語母語話者、タイ人日本語学習者、留学経験者へのインタビューは日本語で行い、タイ語母語話者へのインタビューは、調査者の立会いのもと、タイ人の協力者が母語で行った。
- 4)コレスポネンス分析とは、クロス集計表を元データとして、類似した項目同士を近くに配置するマッピングの手法で、結果は散布図で表現する。プロットされた点同士の相対的な距離から関係の強さを判断し、軸がどんな特徴を表しているのか推測する。例えば、各企業のイメージを尋ねる質問紙調査から得た「高級感」「おしゃれ」「まじめ」「斬新」「伝統」などの項目の散らばりを見て、横軸に「堅実さ」、縦軸に「親しみやすさ」が表されていると解釈する。同時に、「A社」「B社」「C社」という点も重ねて表示されるので、各企業がどのような項目と関連が強いかを見ることができ(この例は次のウェブサイトから引用したものである：<http://www.cross-m.co.jp/analysis/correspondence.html>)。
- 5)aを含むパターンの中でajのみとりわけ間接性の高い方に配されているが、これは「いいよ、ありがとう」のように定型句のように使われるパターンであるため、例外的に間接性が高くなっているのではないかと推測する。
- 6)意味公式の分類上、タイ語の<肩の荷をおろす>は「mai pen rai」だけとした。申し出を断る際に「mai pen rai」がよく使われることを示している。mai pen raiとは、タイ語で頻繁に用いられる非常に意味の広い表現である。堀江(1995、2000)、浜田・成田(2007)を参照。
- 7)上下関係と親疎関係のコレスポネンス分析では、全体の分析の場合と同じように31通りにすると変数が多すぎ、度数が極端に小さくなってしまったため、16通りで行った。ここでは、a,c,f,j以外の意味公式を用いたかどうかは考慮しない。
- 8)伊藤(2001) p.14
- 9)タイ社会には、すすんで他人に利益を与えることは与える人にとっても喜ばしいことであるとする観念がある。石井・吉川編『タイの事典』によれば、タイには「タンブン」という功德を積むことを意味する仏教の観念が浸透している。タイ人仏教徒は自己の持つブン(功德)の多寡が現世的生存における幸不幸を決定する要因であると信じているため、あらゆる機会をとらえて自己のブンを増進しようと努める。例えば僧侶への食事の供用はタンブンであり、利益を得るのはむしろ供

用者自身である (p.205-206)。このような観念により、一般的にタイでは申し出を受けた側が一方的に恩を感じることはないと考えられる。今回のタイ人へのインタビューでも「申し出は断らない」という意見が目立った。

## 参考文献

- 藤森弘子(1995)「日本語学習者にみられる『弁明』意味公式の形式と使用」『日本語教育』87, pp.79-90.
- 藤原智栄美(2003)「日本人とインドネシア人の『断り』に関する分析」『日本語教育学会秋季大会予稿集』pp.77-82.
- 浜田昌子・成田高宏(2007)「タイ人日本語学習者の『申し出の断り』表現に見られる『マイペンライ』の影響—ポジティブ・ポライトネスの表明として—」『小出記念日本語教育研究会論文集』15, pp.39-52.
- 堀江・インカピロム・プリアー(1995)『日本語と外国語との対照研究 マイペンライ—タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察 その1』国立国語研究所
- 堀江・インカピロム・プリアー(2000)『日本語と外国語との対照研究 マイペンライ—タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察 その2』国立国語研究所
- 生駒知子・志村明彦(1993)「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー:『断り』という発話行為について」『日本語教育』79, pp.41-52.
- 石井米雄・吉川利治編(1993)『タイの事典』同朋舎出版
- 伊藤恵美子(2001)「ポライトネス理論の実証的考察—心理的負担の度合いを中心に意味公式の数値の観点から—」『日本語教育論集』17、国立国語研究所/国立国語研究所日本語教育部門編 pp.1-20.
- 伊藤恵美子(2002)「マレー語母語話者の語用的能力と滞日期間の関係について—勧誘に対する『断り』行為に見られる工学系ブミプトラのポライトネス—」『日本語教育』115, pp.61-70.
- ルンティエラ、ワンウィモン(2004)「タイ人日本語学習者の『提案に対する断り』表現における語用論的転移—タイ語と日本語の発話パターンの比較から—」『日本語教育』121, pp.46-55.
- 志村明彦(1995)『『断り』という発話行為における待遇表現としての省略の頻度・機能・構造に関する中間言語語用論研究』『慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化コミュニケーション』15, pp.41-63.

- Beebe, L.M., Takahashi, T. & Uliss-Weltz, R. (1990) "Pragmatic transfer in ESL refusals" In R. C. Scarcella, E. Anderson & S.C. Krashen (Eds.), *Development of communicative competence in a second language* pp.55-73. New York: Newbury House
- Brown, P. & Levinson, S. C. (1987) *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press

## 資料

談話完成テストに用いた場面（日本語版）

①あなたは引越しをしました。部屋で荷物の片付けをしているときに、仲のいい大学の先輩から電話がかかってきました。その先輩が手伝おうかと言いました。片付けはもうすぐ終わります。何と断りますか。

先輩：片付け手伝いに行こうか。あなた：\_\_\_\_\_

②親しい友だちの家に行き、夕飯をごちそうになりました。帰るとき、友だちのお母さん（あなたが親しみを感じている人です）が、たくさん残ったおかずを指して、持って帰らないかとききました。今日はこれからまだ用があるので断りたいです。何と断りますか。

お母さん：これ包むから、持って帰らない？ あなた：\_\_\_\_\_

③あなたは会社員です。会社でけがをして病院に行くことにしました。あまり親しくない上司に話したら、近くの病院まで車で送ろうかと言われました。あなたは家族に迎えにきてもらうように、もう電話しました。何と断りますか。

上司：近くの病院まで送らしましょうか。あなた：\_\_\_\_\_

④あなたは新入社員です。昼休み、あなたが自分の席で仕事をしていると、まだあまり親しくない先輩がそばに来て、あなたのそばで自分のコーヒーをいれながら、あなたの分もいれようかと言いました。あなたはおなかの調子がよくないので断ろうと思います。何と断りますか。

先輩：○○さんもコーヒーいりますか。あなた：\_\_\_\_\_

⑤仲のいい友だちと歩いています。あなたは大きなかばんを持って歩いています。しばらくしてその友だちが、かばんを持とうかと言いました。かばんに大事な書類が入っているので自分で持ちたいと思っています。何と断りますか。

友だち：かばん持つよ。あなた：\_\_\_\_\_

⑥親しい友だちがマンガを読んでいます。何を読んでいるかきいたところあなたが読んだことのあるマンガでした。友だちがおもしろいから貸そうかと言いました。何と断りますか。

友だち：これおもしろいよ。貸そうか。あなた：\_\_\_\_\_

⑦ここは会社です。あなたは上司に頼まれた資料の整理を一人でしています。そこにあまり親しくない同僚が来て、手伝おうかと言いました。その仕事はもうすぐ終わります。何と断

りますか。

同僚 : 手伝いましょうか。 あなた : \_\_\_\_\_

⑧あなたは会社員です。昼休みにレストランであまり親しくない同僚から仕事について相談を受けました。レジでお金を払うとき、同僚があなたの分も払うと言いました。あなたは高いものを食べたので自分で払うべきだと思っています。何と断りますか。

同僚 : ここは私が払います。 あなた : \_\_\_\_\_

⑨あなたは会社員です。あなたは会社の人たちと車ででかけました。あなたがずっと運転をしていたら、仲のいい後輩がかわろうかと言いました。あなたはほかの人の運転は心配なので自分で運転したいです。何と断りますか。

後輩 : 運転かわりますよ。 あなた : \_\_\_\_\_

⑩ここは会社です。あなたは今日、会社の友人といっしょに昼ご飯を外に食べに行く約束があります。昼休み、その友人を待っていると、仲のいい後輩がそばに来て、あなたの昼ご飯も買ってこようかと言いました。あなたは友人と約束があるので断りたいです。何と断りますか。 後輩 : お昼ご飯を買いに行きますが、〇〇さんのも買ってきましようか。

あなた : \_\_\_\_\_

⑪あなたは足をけがしています。バスの中で立っていたら、前に座っていた高校生があなたに席を譲ろうとしました。あなたが降りるバス停にもうすぐ着きます。何と断りますか。

前の人 : どうぞ。 あなた : \_\_\_\_\_

⑫会社の人たちと食事に行きました。あなたはまだあまり親しくない後輩(新入社員)の隣に座っています。その後輩が、あなたのコップにビールを注ごうとしました。あなたは飲みたくないです。何と断りますか。

後輩 : どうぞ。(ビールを注ごうとする) あなた : \_\_\_\_\_

⑬デパートで香水を買いました。レジで店員に、プレゼント用に包むかどうかきかれました。自分で使うものだし、急いでいるので、断ろうと思います。何と断りますか。

店の人 : プレゼント用にお包みしましょうか。 あなた : \_\_\_\_\_

(成田昌子: 文化外国語専門学校)

(成田高宏: 元サハリン国立大学講師)